



誕生の経緯（本年度8年目）

シニアライフコーディネーター（SLC）の、3期の受講生が中心となって、SLC養成講座卒業生の輪を広げる「交流の場」として、平成22年7月に発足しました。会の名称は、「陽が昇る、輝くシニア」をイメージして「サンライズの会」としました。

アクティブ・シニアとして「社会に役立つ存在になるう！」を合言葉に、一人ひとりが百歳まで輝いて生きる何かを発見し、共有し合うことを目的に、意見を出し合い設計図を描き続けて1年9か月、平成24年4月に皆の熱き思いが形となって全員参加型の「学び合い&おしゃべりサロン」をスタートするに到りました。

その時の歓喜は、今も忘れえません。第1回の講師は私で、「皆さん、カウンセリングワールドへ、ようこそ！」傾聴の基本的態度の大切さをエクササイズで体感して、傾聴ボランティアに活かされると目を輝かす参加者の晴れやかな表情を鮮明に思い起こし、心が躍ります。

68回を迎えて見えて来たものとは

参加者の一人ひとりが、何かを感じ、気づき、そして参加して良かった、また来よう、そんな思いにかられる企画はどうしたら創出できるのか？と考え込んでいても何も生まれません。行動し続けてトライアンドエラーを繰り返す中で、不思議と見えて来るものです。

8月の盆休みを除く毎月の第三火曜日に開催していますが、「紙芝居のスキルを身につけましょう」と題した「学び合いサロン」でのことです。「いなむらの火」の紙芝居を観た参加者が、今度は自ら語り手となり、演じる側を経験しました。

「紙芝居って！見るもよし、やるもよし、アナログ小劇場の世界にどっぷりつかったこの感触、とてもいいなあ！」との一声に皆が共感して頷くのを見て、これが参加者の心の琴線に触れることだと実感しました。

フィールド講座

フィールド講座で「銀座ぶらり歴史散歩」をする中で、案内人に導かれて昭和7年に建てられた銀座アパートメントハウス奥野ビルに入った際に、手動式の古いエレベーターが今も稼働して、乗ってゆっくり上昇する時のセピア色をした情感に参加者皆が酔いしれて感動しました。

「江戸風鈴の工房体験」では、熱せられたガラス玉を吹いて風鈴の型を作り、絵柄をつけながら自らの創作意欲の高まりを感じつつ、その風鈴の音に心洗われました。

参加して良かった、来月の講座は何って聞かれるたびに、参加者一人ひとりの心の琴線に触れて響く講座を、明るく楽しく提供し続けて行くことが「サンライズの会」に求められるこれからの進むべき道であることを、参加者の皆さん一人ひとりから教えられたような気がします。

「サンライズの会」は挑戦し続けます

講座の内容をカテゴリー別に見ると、健康維持講座、子育て支援講座、スキルアップ講座、歴史や体験にフォーカスしたフィールド講座そして人生講座などです、

ペグともいえる一人ひとりの心に何か引っかかる、吸い寄せられるそんな講座の充実に挑戦し、協会のジェロントロジーの理念をベースとして「発信力」「受信力」「コーディネート力」を兼ね備えた自主活動グループとして、情熱をもって今後も邁進して行きます。

